

チエルノブイリ原発事故に
よる日本国内の放射能汚染に
ついて、見知らぬ一般の方々
から、よく相談を受けた。その
多くは、小さな子どもたちを
持つお母さんからで、母乳を
やめて粉ミルクにしたほうが
よいだろうかとか、子どもた
ちに牛乳を飲ませて大丈夫だ
ろうかとかいったものだった。

そうした質問に対し、私は、
おおむね以下のように答えて
きた。

——今回程度の日本の汚染
レベルでは、髪の毛が抜ける
というような急性障害のおそ
れはないだろう。問題は、将来
ガンや白血病にかかる率が大
きくなるという晩発性の障
害である。晩発性の障害は、た
とえ被曝量がわずかであって
も、それなりに生ずると考え
られている。法令で一応許容
量というものが決められてい
るが、許容量以下だったら安

全、というわけではない。従っ
て、余計な被曝は避けるに越
したことはない。

しかし、今回の放射能汚染
は、空気が、水をはじめ、身のま
わりのほとんどのものに及ん
でおり、被曝を避けるといっ

り私たちに降りかかってきた
危険と、被曝を避けるために
払わされる負担との兼ねあい
だろう。

危険の大きさを将来生じる
であろうガン死者の数であら
わずと、日本に住んでいる一
億二千万人のうち、たぶん数
十人から数百人ということに
なるだろう。私たちは日常的

ろんだが、生活環境全体が汚
染されてしまっている以上、
今回の放射能汚染だけに余り
神経質になってもしかたない
と思っている。私の家にも小

さな子供たちがいるが、ふだ
ん通り生活して、いつものよ
うに牛乳を飲んでい——
相談されてきたお母さん方
にどこまで理解していただい

チエルノブイリ原発事故による 日本の汚染をどう考えるか



でも容易なことではない。ま
た、母乳を粉ミルクにしたと
して、いくばくかの被曝は避
けられたとしても、母乳から
粉ミルクにしたことのマイナ
スを抱えてしまう。このあた
りの判断は、放射能汚染によ

に、交通事故などさまざまな
危険や農薬、食品添加物によ
る汚染、さらには医療用放射
線や自然放射線などにさらさ
れているわけだが、そうした
ものと比較して、今回の放射
能汚染による危険度がとりた
てて大きなものとは、私は考
えていない。避けられる危険
は避けたほうがよいのはもち

たか甚だこころもとないもの
であったが、たぶん最後の一
言が一番印象に残ったのでは
ないか。本紙の読者のなか
には、交通事故や自然放射線な
どを引き合いに出して比較す
るのは、推進派の言っている
ことと同じでけしからん、と
思われる方もあるだろう。私
としては、情報が断片的な

かでお母さん方が心配される
のは無理からぬものの、農薬
や食品添加物、医療放射線に
は平気で、今回の放射能汚染
だけ特に不安だとしたらおか
しい、と言ったつもりである。
原子力の抱えている危険性
はたいしたことないなどと言
っていると思われたとしたら
とんでもない誤解だ。放射能
汚染を認めているわけではな
いが、実際に汚染が生じてし
まった以上、それにどのよう
に対処すべきかは、被曝を避
けるために払わされる負担と
危険の大きさとの兼ね合いで
判断するより仕方ないだろう
と私は考えている。そのため
には、汚染の状況をいち早く
把握し、その危険性を含めて
人びとが承知するすべを備え
ておくことが必要だ。

今回の放射能汚染で私たち
日本に住んでいるものにとっ
て幸いだったのは、とにかく
八千kmも遠くの事故だっ
たことである。汚染によ
る日本人の平均的な被曝
線量は、私の見積りでは
一年間ふんで全身線量約
〇・五レム、甲状腺線量約二
十レムである。もしも日本
の原発で事故が起きたなら
ば、危険の大きさとの兼ね合
いなどと悠長に考えている間
がないことは言うまでもない
そうしたときに、お母さん方
から相談を受けたらどう答え
るべきか。今から考えておか
ねばならないと思っている。

京都大学原子炉実験所

今中哲三

◆講座にとして依頼し、以上
の原稿をいただきました。

講座というには個人的な意
見の色彩が濃いものですが
「ひとつの問題提起」という
筆者の言により、そのまま
掲載しました。(編集部)